

先般、「まちなみ住宅」100選という全国コンクールにて(住宅月間中央イベント実行委員会委員長賞)をいただいた。

このコンクールは、ひとつの住宅が近隣に対し、潤いや楽しさ、美しさを創出することで周辺に波及し、地域全体が美しく魅力ある「まちなみ」に育つという観点から、その趣旨に合致した住宅を顕彰するというものである。今回受賞した作品は「古い街並みに潤いと息吹きを放つ住宅」というテーマとした住宅で、以前本誌においてもリタイア後の暮らしを楽しむ家として紹介させていただいたことがある。

この住宅がある白杵市は、稲葉家5万石の城下町の面影を多く今にとどめる地方都市で、この住宅の建つ場所も、市街地ではあるが落ち着いたたたずまいの感じられるところである。

特にまちなみに配慮していると評価されたのは、玄関へのアプローチである。アプローチへの導入は、街道に面する古い長屋の中門からであるが、この長屋は、今でも畳屋さんと囲碁の集会所に使われ、古びてはいるがなんともいえない風情をただよわせている。そこから玄関に向かうアプローチは、すこし薄暗い長屋門から奥へとつづき、玄関あたりの明るみのなかに、床の石畳、両側に緑の植栽と竹垣、そして玄関の格子戸が一体となった空間



長屋門から玄関へのアプローチ

をつくりだしている。まち行く人がこの前を通るとき、その情景を見た一瞬、ふと潤いや生命の息吹といったものを感じてもらえているのではと思う。また、この住宅に近接する二王座地区は、武家屋敷と寺院が軒をならべ、城下町の風情を今に伝える街並みであり、そこを通り抜ける道路からの外観は建物全体を見渡すことができるが、この古い城下町にふさわしいいぶし瓦などを使用し、また色使いにも配慮した。そしてなにより、この住宅は近隣の人々にも親しまれ、特に柿の木や古井戸の残る庭、そしてテラスは人々の憩いの場となっており、「内なる建物も町に生き続けている」という評価をいただいた。

建物をつくるということは、その周辺への影響も考えなければならない。施主の方の希望に叶うものであることはもちろん、その場所の文化、歴史、風景、まちなみ、そして人の営みといったものに配慮することも大切なことである。そして、その思いの集合が美しいまちなみを作り、美しい都市を作り出してゆけるのだと思う。



二王座のまちなみ



街道側から。中央から入る。(新築前)